

東海道名所圖會
六

ル 3
3759
4



門ル3
號 3759
卷 4

東海道名所圖會卷之六

目錄

江島社	石鳥居	止之宮	鐘之樓	下之宮	護國寺	石鳥居	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	針磨橋
本宮御旅所	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居	末鳥居
求聞持堂	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居	本鳥居
銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居	銅山居
隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門	隨身門
聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥	聖天鳥
初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原	初原
砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原	砥上原
行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川	行合川
月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷	月陰谷



阿佛尼壽

極樂寺

每慶腰掛松

極樂寺切通

鎌倉

鶴岡八幡宮

本宮

武内

神明

六朝

愛染堂

轉輪藏

實朝堂

茶師堂

赤橋

多寶塔

丹波

實朝堂

段主館

十二院

後醍醐

丹波

實朝堂

法華堂

賴朝卿墓

鳥津忠久墓

賴朝館

鎌倉十橋

畠山重忠第

蛇谷

鳥合原

覺園寺

大樂寺

鎌倉十井

荏柄天神

大塔宮土牢

二階堂跡

獅子巖

棟立井

天台山

歌橋

文覺冢

瑞泉寺

釋迦堂谷

唐絲娘土牢

杉本親善

大御堂谷

淨妙寺

尊氏第

五大堂

滑川

佛殿

開山塔

捨剎

建長寺

龍王殿

書院

影向

銅山

瓶弁

最明寺跡

明月院

圓覺寺

科殿

同額

甘露井

圓覺寺

總額

白鷺池

方丈

圓覺寺

妙光池

虎頭石

宿龍池

長壽寺

常樂寺

本曾家

鐵井

長壽寺

窟不動

壽福寺

實朝塔

英勝寺

泉井

網引地蔵

石佛尼塔

源氏山

扇井

海藏寺

矢拾地蔵

為相塔

景清卒

假粧阪

底脫井

十六井

巽荒神

人丸塚

正宗宅

連慶宅

裁許橋

佐々稻荷

尊氏冢蹟

典禪寺

天岳堂

常胤宅

隱里

鏡洗水

天岳堂

常胤宅

佐々目谷

塔過

盛久野座

甘繩祠

藤九房盛長家

乃能瀬川

光則寺

大伴

御樂嶽

常盤里

長谷寺

御靈祠

星月夜井

寶戒寺

北條第

土佐坊第

葛西谷

屏風山

小富士

塔辻

行比

產女塔

妙本寺

比企判官趾

田代觀音

裸地藏

補陀洛寺

光明寺

六角井

小壺鷲浦

善導塚

鎌倉渾村

守殿明神

岩殿觀音

新居船魔

六代所墓

神嵩

安國寺

燈摺山

日蓮水

石井

梶原左刀洗水

御猿畠山

梶原第

頼燒弥陀

金龍院

佐竹第

侍從川

六浦川

兼好回趾

朝比奈切通

頼戸明神

頼戸毎天

頼好回趾

頼戸橋

照心松

金澤

兼好回趾

洲寄

稱名寺

藤澤

清淨光寺

美石

筆捨松

普賢象

同貞顯塔

能見堂

觀音堂

日供堂

武藏相模國燬

本堂

富士見亭

小糸家墓

常山累世墓

坊文

三門額

日供堂

武藏相模國燬

小栗堂

芝生窟

戸塚

武藏相模國燬

程谷

神奈川

川寄

武藏相模國燬

大師河原

五重塔

鬼子母神堂

武藏相模國燬

新田明神祠

八幡冢

大森

武藏相模國燬

本門寺

荒菫寄

名産海苔

武藏相模國燬

宝藏

祖師腰掛松

祖師塔

武藏相模國燬

祖師腰掛松

千束沈

什宝

武藏相模國燬

鈴奈八幡

鳥石

品川

武藏相模國燬

祖師腰掛松

祖師塔

品川

武藏相模國燬

祖師腰掛松

千束沈

品川

武藏相模國燬

祖師腰掛松

千束沈

品川

武藏相模國燬



江湾
海濱

山王

海晏寺	東海寺	御殿山	八山
芝大佛	泉岳寺	芝冲漢船	三田八幡
真藍觀音	西應寺	道灌城趾	熊谷城墟
雜魚場	含海山	長南壽	金杉
増上寺	飯倉神明	畫肆	愛宕
築港本願寺	日本橋		



江嶋辨天女社

或の繪の藪又の櫻樹又の櫻樹と書に於て
町の同潮の千たる附を歩ゆとて流る江の麓に
形の金山石の如く日本之天の其一箇に所謂巖竹生江の三島多

江の流やどとて江流小のとある神れちひの流るる
相州江之傍へ開化天皇六年四月江頭の南方小中て海面一夜鳴動し

て碧空小注に黒雲朦朧して洋々たる百灘天地分る漸其鷄
鳴小及んで竜女の音楽ふ波の中に聞え女童舞遊んで花隊異香薫ひ

既小驚傷長く静り暴風遍く盡く狐鳶海上小涌出と今の江
鳴るれは時小當て天女忽然うて降臨し中續く四王天十兩將

天女狐守護と遠近に村民遙小は希瑞な將一渙父の初て鄙心と棄く
藉信を發し農まを野情と止て至誠を起し而后 欽明帝行宇六年

四月依詔初てあ夜の例象狐小又順徳院行宇建保四年正月十
五日江嶋明神苑宣有て滄海忽陸路と変り因茲参居の人民服れ

煩きとんと近くの鎌倉中れ緇素羣ををも真小希代の神變之三浦
左馬門尉義村氏頼頼朝々此神使とてあふ海を舟乗南船小

見下りけ傍の角基初後小角ありと春澄又い道智其弘法
大師後支費房も再興あり一霊場之は池を風系真妙ふ

関八州の中小山水の美く勝邑あり

窟本宮 江嶋南の隅の金窟狐の大女財天と安ん神像弘法大師の
胎藏界 金剛界と表れ又其奥に兩部大日如来と安ん是天女根本

弘法大師 獲鹿の窟あり又日蓮の跏坐石といふあり傳云日蓮上人
は窟に筆り石上の跏坐して眞感と稱す自法華經と書寫し

窟の内院小藏心今は法華經の別當岩本院の作寶と
は窟の舊號は本小嶋といふあり金も出るといふ

魚板石 龍窟のありあり岩面平ありて魚板の如く一石あり

本宮御旅所 江嶋西南の山麓ありて毎年四月初巳日龍窟の
毎財天の神樂あり別當社に龍窟あり

又十月初支日小龍窟へ還るあり十月より四月まで龍窟に
又十月初支日小龍窟へ還るあり十月より四月まで龍窟に

神樂ありは所旅所ありて龍窟のありあり

又十月初支日小龍窟へ還るあり十月より四月まで龍窟に

神樂ありは所旅所ありて龍窟のありあり

求聞持堂

本宮の側あり虚空蔵菩薩と奉りてん求聞持の額あり日光寺内主光辨法親王の御あり

開山堂

弘法大師の御あり

觀音堂

求聞持堂の南

末社

編草 天満宮

本柱考居

上宮より本宮入り

銅考居

本宮入り板考居

石鳥居

板の上あり

神庫

神樂樂器考居

石燈燵

樓門のふみ多く

石考居

龍窟へり板の上あり本宮

岩屋考居

大室王といふ額あり

別當岩本院

當山は金龜山興願寺と号し岩本院は志山懸別當にして本宮龍窟に漢言宗京師仁和寺仲室の末

上之宮神殿

志山の中程あり祭神大弁財天女神像は慈覺大師の他

爲殿額

本財天と書れ

末社

神明 熊野 稻荷とあり

護摩堂

社の西あり中書愛深明王

樓門

樓上ふみ考居とあり

錢樓

社の北あり室永年中

本柱考居

本財天の額あり

上之坊

上之宮の護り真言宗江の坊三坊の其一

下之宮神殿

山の初あり社額云正徳元年真上人江修ふ至り

下之宮神殿 山の初あり社額云正徳元年真上人江修ふ至り... 牛頭天王神像 隨身門の... 觀音堂 如意輪現を... 末社 熊野 神明... 二王門 額をうり

鐘樓

寬永十四年の遠立り

奉治鐘銘 金龜山與願寺宇賀辨財天女
下宮鐘銘 東海道相模川江島者從金輪
大日本國東海道相模川江島者從金輪
出之靈鳴歎福神庇居之巖窟焉加之
十代欽明天皇十三壬申歲自四月十一日
判當于江野南海湖水之神現雲霞暗蔽
日夜大地六種震動天女頭現雲上童子
左右諸天龍神水火雷電山神鬼魅夜及
浪同及于盤石從海舉砂礫電光耀空火
鳥山耳今之三神山是也抑此神將王者
之起之陰陽之初也尊神也現法年舊誰
事之利生大慈何如尊神現德乎本地則
覺之體與官與福之利益是傳教應前發
詣此山越知與泰澄居當鳥傳教應前發
弘法床上對請恒臨慈覺念時常隨給仕
行場應滿知所仰以頭密實宗宗被冥助
商農家家仰聲上徹梵天頂下警地輪底
治鑄蒲牢一聲用上徹梵天頂下警地輪底
耳根利故遍久御願圓滿別而施主懸志
總而天長地久御願圓滿別而施主懸志
天本願任誠於大悲誓約所祈善願令悉
就而己維時寬永十四丁丑春月吉

碑石

天台傳燈三部都大法阿闍梨法印生願謹書
下宮別當職權大僧都法印長神誓首敬白
別石あり座あり
江島の屏風石と少相傳り此碑は土所門帝の御
私る宗廟に到り慶仁律師の御書に云く此碑と將來一帯
まといふ篆額の小篆文字より大篆と彫り

大日本國

江島靈迹
此碑は土所門帝の御書に云く此碑と將來一帯

下之坊

下之宮の護り真言宗妻帯
所來平次領領

銅鳥居

此の入口の左に大母財天や額と有り
江島惣ち居たり

住吉祠

荒神祠の後の半あり其形蝦蟇に似たり
小坂の上

荒神石

荒神祠の後の半あり其形蝦蟇に似たり
下之宮へ有り蝦蟇の形あり俗説云は石の側より

福石

下之宮へ有り蝦蟇の形あり俗説云は石の側より

蓮美池

山中あり有り一上人蓮池の時折河原に居

一連上人自子の額あり遺書と書久

今岩本龍窟ありく什物と云
兒淵 龍窟へく岩下の窟あり相傳ひり
建長寺廣徳庵に
江崎小幡は山中あり美切報小遇入藏主戀毒のふひ此のく
あんなんの伴ふ僕小向を鎌倉の相義院に住む白菊といふ思ふ
と善ふれりいふとく篇ふふひの海に波をこ書て求めも更
諾もりの途ありいれども目ふつてくく人の園ふつてくくおぬて
賜れども海ありいれども目ふつてくく人の園ふつてくくおぬて
そのあやありんんのあは海にれれくく江崎小幡にありあり
つあやうわれとるあの人ありをえせよと云く別れぬ其願ふあり

白菊ふとのべ北里の人ぞりくく入江の流くくくくくくくくくく
うは津とくく入江の流法ふくくく今い波の下ま
くく二首の辞せくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
はふとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
懸崖 嶮處 捨生涯 十有餘 霜在 刹那
花質 紅顏 碎 岩石 蛾眉 翠黛 接塵沙
衣襟 只 濕 千行 淚 扇 子 空 留 二 首 歌
相對 無 言 愁 思 切 暮 鐘 爲 孰 促 歸 家
白菊の花は流のふくく海ふくくく入江の流くくくくくくくくく
あれら流くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
白菊が海と縁金ふあり自休の像を日く西門内法善堂ふあり
えん 見く淵より岩あり小坂あり岩ふくくくくくくくくくく
云天 云天とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
白龍窟 龍窟より東ふ圓く分二分三の窟くくくくくくくくくく

自休

龍池 東西の窟中あり満遊くくくくくくくくくくくくくくくく
あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
其證ありいふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
飛泉窟 泉の窟中小瀑あり跡の下わ水あり
白龍くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
十二窟 流のめぐりあり是は女天女守護神
十二神將の居所と云く
仁田抜穴 龍窟の東と云くくくくくくくくくくくくくくくく
人穴の半ふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
江崎小幡は山中あり美切報小遇入藏主戀毒のふひ此のく
あんなんの伴ふ僕小向を鎌倉の相義院に住む白菊といふ思ふ
と善ふれりいふとく篇ふふひの海に波をこ書て求めも更
諾もりの途ありいれども目ふつてくくくくくくくくくくくくく
賜れども海ありいれども目ふつてくくくくくくくくくくくくく
そのあやありんんのあは海にれれくく江崎小幡にありあり
つあやうわれとるあの人ありをえせよと云く別れぬ其願ふあり

聖天島 今窟中・小良真上人の像安久雨後んとする付の山
水天流くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
叱枳尼天山 流のくくくくくくくくくくくくくくくくくく
圓可寺 東の山の半抜ふあり真言宗やくくく度の青蓮寺のまら
真小幽寂家敷くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
江崎名産 幅海苔 海雲 比志岐 鮑粉漬
花貝 貝やくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
散くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
散くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

散光

江崎例祭
 毎年四月廿日己卯
 宮内省より山宮に
 所蔵の書を教諭して
 奉祀あり



江の橋や
 ちのひ原へ
 ちの神かくは
 波のまゆらん
 舞臺
 石橋
 舟のり
 仲れ
 富士谷成章



行者專不動咒と痛ま其時瑞雲窟中に起り光明空裡照然
中して天女化現し八臂は尊體小く是每天現の最初也老七年
去二月秋泰澄江橋小到り陀羅尼念誦を毎日亦生身と現し弘仁五
年去二月弘法大師聖跡江橋をさきく東海小到り相州津村の濱に至り遷
り南海江眺めを聖考あり橋の頭より彩雲浮んで去上小金龍江見し
大師教して瓶小糸し高小到り金窟小入り政坐する半一七日專真
言陀羅尼念誦満むる夜窟中嚴淨して梵樂聞ゆ天女忽然として
現れ八臂具足の相好江見せ大師小一偈示し一曰

三界是我有衆生亦吾子
此處多諸難唯我能救護

承安二年文覺上人豆州謫遷時武將頼朝々小羯して義兵江上より老
文覺江橋小来て毎財天小祈願す其後四海治平天下靜謐日寸覺房は龍窟
小泰籠し奥州伊達秀衡調伏江務る日寸金窟小居江建らる其外豫
倉武將の尊仰ありひ龍穴にて祈雨の事相傳ふるなり又武將の執

權北条四郎時政江橋小泰籠し子孫の終業昌江務るなり二十七日小ありる
衣緋袴小柳裏に衣着る女房の端嚴美廉を忽然として去り時政小
告て曰汝が生し箱根の法師之六十六部は法華經江書寫して六十六箇箇の
靈地小奉納したる箱根小よつて再び土小生る事江得たり然れば子孫永
權と執て榮花小よめるべし但奉勳違ふ所ありは七代と過箇くは五言云々
不審ありて國々小納し所は靈地と云々云捨て歸るの事其要江見しこと
嚴しつりし女房忽長二丈許の大龍と成て海中小入り其跡江見る小之
鱗之牧強やう時政所願成就しぬと喜て則ちの鱗と取て旗の紋を相
らる北條之鱗形は紋是之其後每天の所示現小任て國々の靈地入江
奉納れば華経江見さしめたる小俗稱は時政と法師は名小換り奉納の筈
れ上小大法師時政と書たる事我々不思議をれとを平記小見しこと其
星後甲乙文十八年閏八州の太守小条氏康江橋に神嚴諸社諸堂の
荒蕪と對し美金神劍神馬江納らる其後代々將軍家江所奉納

日蓮上人
舊跡



龍口寺



龍口神祠

津村あり糸神江流大岩紙ふくまらり例宗九月九日社務と
實岩院といひ山の半腹ふ岩石あり其形龍の口ふ似て江流
の方ふ向ふ故ふら龍口山といふ名あり

龍口寺

江流の北にあり
龍口寺 八箇寺の輪番所あり
日蓮上人の像が今も寺にあり

敷革石

本堂の内陣厨子ふあり書額ふ云文永八年九月十二日日蓮
上人難ふ遇ふとあり又一名首座石といふあれと龍口の内
法要経題目と誦れ

七面洞

本堂の東 番神堂 七面の南ふあり松平飛騨守利次の
室本願 再興ふ及ぶ

敷革堂

本堂の東向ふあり祖師の像
本堂の老僧の像は安ん

光の松

門内の左ふあり日蓮上人難ふ遇ふ時松枝ふ先明
け由縁記に非階の

長者塚

龍口山の東ふ山中ふあり江流記ふくまらり長者十六又の子知
龍ふ其善徳の爲ふ塚築ふと今ふ家の形あり

初歌隈

龍口山の東ふ山中ふあり江流記ふくまらり長者十六又の子知
龍ふ其善徳の爲ふ塚築ふと今ふ家の形あり

固瀬川

行願院敷十向坂五十餘ヶ所お火とつらり
又清紙左傍門はらと通りなる早火お牛の尿せり
時頼殿の件事はうらうらと壁と難と多と信人ふんく
と向ふ小糸坂の件事ハ親族の高僧と多とく多くの布施お録り
貧僧ふりかーもあまの早火お牛の尿はの流せりと同ト
多と田畑のやうへ屋とまををわい
中一松小東時頼ふれを修へ向く青紙とた上ヶ字と政通の
役ふ任りゆり事 鎌倉九代記に書しり

西行願院

行願院村へり海流ありゆり上人ふり都の方ハ願り
松枝とあの方ハ振ゆひり
又諸願原ともは行願川の東にハ東海道節大坂と
平流のわいとハ唐原といふと

唐原

平流のわいとハ唐原といふと

名集

名集 名集
わの海流の流うららにありまらり
はとろきんふらふと一鳥羽五の長流と近江唐と原

宗集

宗集 宗集
わの海流の流うららにありまらり
はとろきんふらふと一鳥羽五の長流と近江唐と原

懐中抄

更張日記

ちのちの中よりそくれまわると遠く見たり原 倭人言は
とあり一がとらまると美しう白く、海とをさしとらうけ、
錦とをさるるなりふ形んさるなり

砥上原

斤瀬川の西ふありは八ヶ原といふ所なり
源平盛衰記ふらんなり

柴松のふれたふふ事ありてさるる小麻吹あり 西行
備ちうれさるる系小駒をたて斤瀬川に志ほいとせまる 長明

立帰る名残を妻ふほほむらんとせり系れ葛の冬枯

八ヶ原の八ヶ代のかいおのりてとせり系小庭もつじ

杖浦

移旅より江沿へり路の候を返つふ
左右杖ふ似たり

あまのやー杖浦のつひーわらふおれわと寂たふひさるん 僕人言は

七里濱

腰城より縮村寄まで浦道に十二町あり東園の六町とせり
七里濱といふは古我場ふして今ふわくも刀劍の折るる又武具
の錆或は骸骨など真砂の中より出るなり南方は太平洋に

小動

七里濱の西ふあり巖山
山上ふ八王子洞あり

小動

あまのやー杖浦のつひーわらふおれわと寂たふひさるん

行合川

山の方山谷より流出く七里濱より海ふ入日蓮上人龍口の難小遇ひ
時多端多々れを鎌倉一註進の使と又小糸時頼の赦免の使と

縮村寄

七里濱の東ふあり東園云建久二年九月廿一日頼朝が海濱に遊
びし所として小笠原の掛負ありしとせり浦濱は原とつふ

奥四五町が程小大船とも及びて櫓とせり横矢が射さんと様なり

実もは陣のさるる叶り引ぬんも理へと見ふれは我負馬より下給

て甲と脱て海上に遙々と依れ龍神小回て祈誓しあひるの傳承る日本
開闢は神主伊勢天照太神の本地大日尊像ふ隠し世跡は滄海の
龍神小頭一給り吾君其苗裔として逆臣の海四海の浪小漂ひふ

義貞今居る道成をさんる不承能と把て故陣小隊も其志備ふ
王化公資け奉て蒼生安んた志んと仰願の内海外海に龍神
八部に忠義公堅く潮水に萬里の外小退け道成二軍陣小用
し先あり至信小祈念し自佩給る金修れを刀に接て海中投入
ゆひたり真龍神領受やゆひたり甚夜の月け入方小前より更ふ
干は身もあうる稲村寄俄ふ二十餘町干上り平沙場々々様
矢射んて撞ゆる殺ふれ兵船も落りけふ落れて遥の澳小漂る

袖の浦

稲村寄の海濱社のゆへ故ふる名と
又出羽ゆへありゆへよりてふれとが川

家集

袖の浦は花の浪もゆへり死にゆく秋の色もなほはく

順徳院

山家

袖の浦ふたまもゆへりゆへりゆへりゆへりゆへりゆへりゆへり

定家

針磨橋

稲村の東ふあり鎌倉十橋の
其一橋あり

阿佛尼第蹟

月乳谷ふあり又蹟墓の窟谷英勝寺境内ふあり
り佛尼の藤原為相卿の母公あり

十六夜日記

東やま位やまあり月乳谷とゆへり浦近山とゆへり風い

あゝ山寺れ傍なれゆへりゆへりゆへりゆへりゆへりゆへり

雲山極樂寺

極楽寺切通ふあり真言律宗
南都西大寺の末派あり

本尊釋迦佛

興聖菩薩の化系師差我釋迦佛摸以左右ふ十大尊
たふ興聖菩薩右ふ忍性菩薩の像又支殊菩薩と安ん

富山開基の忍性菩薩又良觀上人と号れ又の伴貞行母の檀本氏之
和州城下郡勝風村あり建保五年七月十六日誕生十六歳の時
母公逝したれを菩提心訪んる為ふ和州額安寺ふ於て釋迦佛
東大寺より登壇受戒しやれり諸山巡り苦修練行忍性菩薩
淨都より五十年七十二歳ふ及んで浴せり病と奉り忍性菩薩
藤と号し七十八歳の時永仁二年持明四年王ち石死表に建
高サ二丈五尺嘉元元年七月十二日浴せり後くまふ入
嘉元八年七月二十日二百五十戒に願ひふ寺本願の陸奥ち平重時
は極樂寺に營り發病よりふあり心小稱名念佛し終
る弘長元年十一月三日卒年六十四

安慶腰掛松

極樂寺境内ふあり俗傳云源義経兄頼朝の衣通の
松あり書ゆひふ松あり佳りされり松あり松あり松あり

極樂寺切通

極楽寺切通ふあり由井の侯より切通し

極樂寺切通

極楽寺切通ふあり由井の侯より切通し

七里濱

腰越より稲村橋
 東風六町を里放
 りの七里濱と
 古戦場ありて今
 刀剣のたぐひ古
 かど砂中より出
 来り

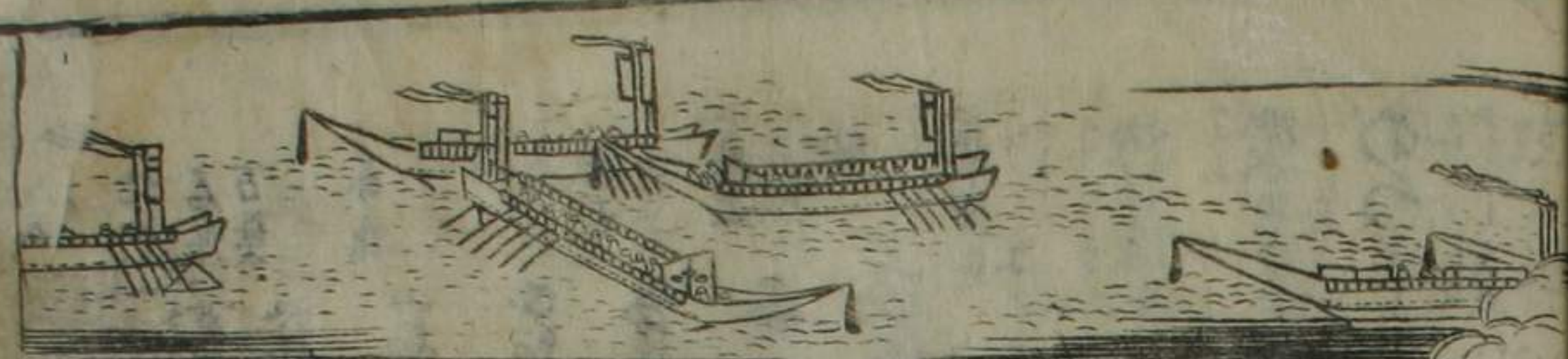


古戦場

百我人安在蕭條
 逐鹿原陣圖空
 臥石運數盡枯根
 鬼哭陰長夜燐生
 舊雨痕因悲千古
 地來者亦難存

香川海園





新田義貞鎌倉攻の時
 北条の軍勢海陸に
 充滿しててむとす
 かりし義貞は
 めも海上に舟を
 築りて外に退け
 龍神の御座る
 二十餘町の深
 なる安くと
 高時と亡し
 真の七里壇
 風吹く
 外龍の舟
 同日の論

伊藤権守馬路

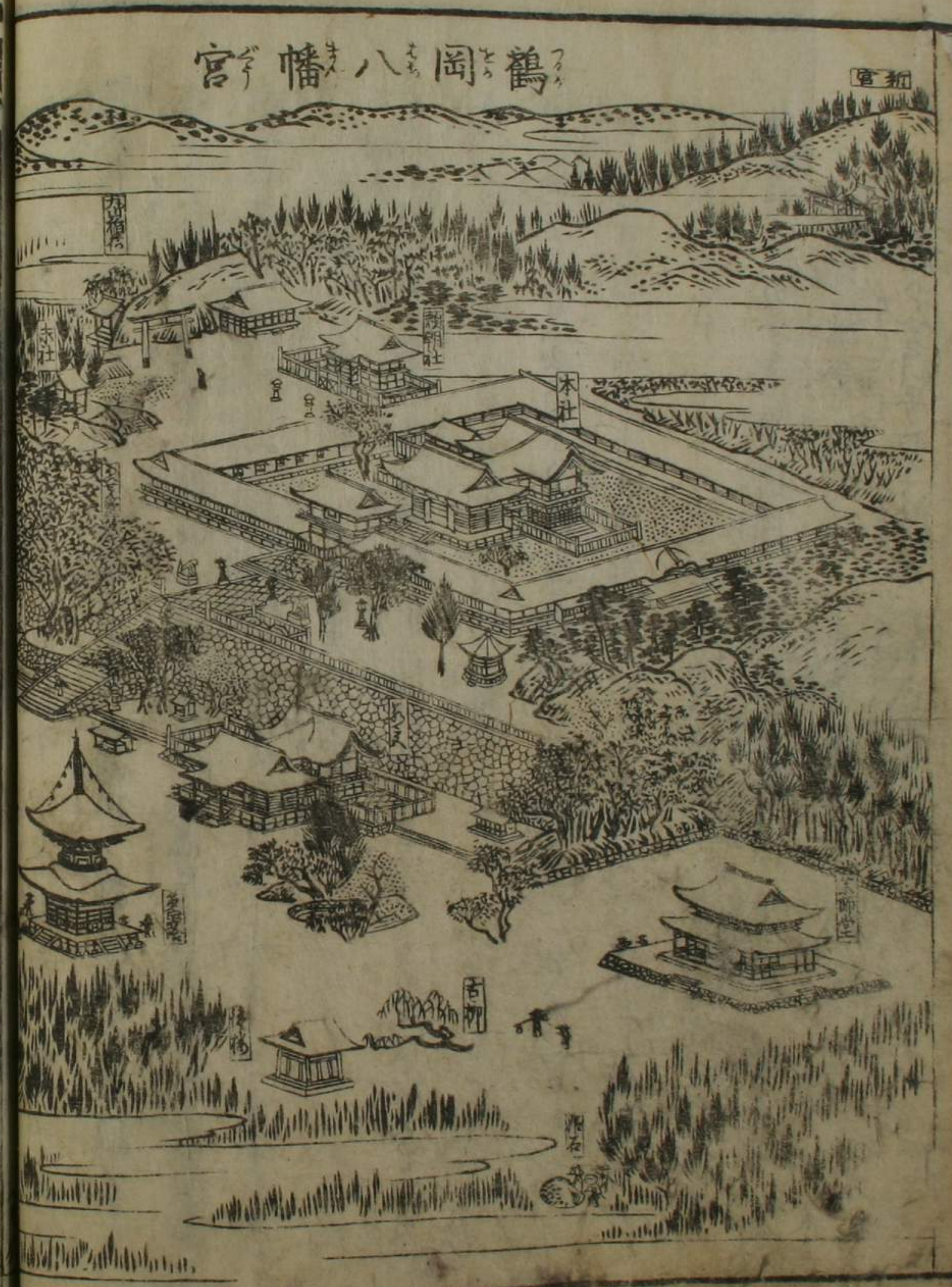
各
ひ
か
り
に
龍
船
奇





鶴岡八幡宮

新宮



琵琶橋 下郡



葛段 居かお一、正鶴



由井溪
大倉居



鶴岡八幡宮

鶴岡八幡宮 鎌倉中央の古刹。建久二年四月、頼朝の命によりて
 八月十五日放生會あり。同日、鶴岡八幡宮、相模あり。又二月十一日
 初卯日、信儀あり。社領の永樂侯八百四十貫文とあり。社領は鎌倉
 一郷の古代の風俗ありて、社領の寺社領に極む。

新於基
 鶴岡正あさひ松吹風の雲井ふひくよ代の舞
 鎌倉右大臣

本宮 上之宮 祭神 中央 應神天皇 左大仲媛
 右 神功皇后 已上社説

武内社 本社の大あり高良明神。樓門 本社のかつあり額に八幡宮寺
 豊聖間戸 檜聖間戸 圓廊 樓門の左右あり東の方 將軍家神所

若宮 下之宮 祭神 仁徳天皇 額に大権現青蓮院尊純法親王の
 所あり

松ヶ岡稲荷社 本社の西の方を山とす所あり初め今此本社の地あり

末社 三輪 熱田 三輪 住吉の四所あり宮の東に記す又松童 源太史

神明宮 上の宮右石階の下 頼朝祠 本社の西の方を岡の外のあり

愛染堂 又堂内小塔蔵あり 頼朝の末像あり 立つて毎月十五日を祭る

竈殿 頼朝の西より神位所なり 頼朝の末像あり

影向石 本社の西の方あり 頼朝正應二年二月四日影を風雨して

六角井 回廊の外東の方あり六角堂の肉ふ 法泉あり故に名とす

銀杏樹 石階の下西の方あり東盤云養久元年正月廿七日 將軍

藥師堂 下の宮の東あり 藥師如來十二神像と安ん

柳原 土人傳く古より 柳原の地あり

鐘樓 塔の形あり 塔大サ四三尺五寸厚サ三寸五分

夫當宮者馬臺東戌之州鶴岡甲區之地模男

山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之國領祇

之堂焉禮頌不儀春禴之奠秋嘗之儀春禴

幾回鎮護年尚答貺日新然問去茲迎姑洗不

圖欠靈洞肆深仰玄鑿忽跂經始課般俎是

尋是尺用規矩守不愆不忘土木之勤既雖及

兩祀斧斤之功殆可謂不日傍斯苔孺而復鵠

基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

夫當宮者馬臺東戌之州鶴岡甲區之地模男

山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之國領祇

之堂焉禮頌不儀春禴之奠秋嘗之儀春禴

幾回鎮護年尚答貺日新然問去茲迎姑洗不

圖欠靈洞肆深仰玄鑿忽跂經始課般俎是

尋是尺用規矩守不愆不忘土木之勤既雖及

兩祀斧斤之功殆可謂不日傍斯苔孺而復鵠

基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

治鑑甫就 實器鑄陶 龍文製妙
 鳥巧奇標 形非啾吟 聲不激飛
 應陰陽律 入宮商調 小大共振
 清濁孔昭 帶霜早和 隨風自搖
 式驚千界 高微九霄 梵響無斷
 正和五年二月日

○實朝祠 本社の下の下りり柳宮明神と号し

○二王門 本社の正面より左右金剛力士安ん顔小幡岡山と書し

○赤橋 本社より石の及橋のついでに五間小中三間

○神池 赤橋の左右あり東の方北池中小三間の橋あり西の方北池小四間の橋あり初め東西小四池あり合て八橋之平家の八橋小御トトク

○辨財天祠 東方の北中あり毎年の縁由運慶の他藤小笠原勢小

○鳥居 石柱の及橋の南ありい鳥居あり宮小御と云ふ

○段蔓 社あり由井候より道の真中高一尺高六尺高或人の

○二鳥居 一鳥居より二鳥居あり
 四町十五石半あり
 二鳥居 四十五間南の向と毘登小路と云ふ

○之鳥居 四十五間南の向と毘登小路と云ふ
 毘登小路と云ふ
 毘登小路と云ふ

○新宮大権現 防中我覺院の門あり左の方入る

○神主館 將軍家の文書家藏と云ふ又少別當と云ふあり

○十一院 葛岡西の方小居は高社の供僧あり

- 忘光院 増福院 海光院 正覺院 我覺院 淨園院
- 香象院 莊嚴院 相承院 安樂院 等覺院 最勝院

右の十二箇院の中、莊嚴院の後山と後醍醐天皇とつゝ山あり
ついでには西小山富士峯東麓の滄海、海峯ありて、雲連り山亭
あり、山近く聳ゆる亭中、少く後醍醐天皇の浴と擧げ、亭あり、山亭あり

維此天府 雄據有時 盤互疊巒 峻踞維奇
層巒斷崖 關之有誰 維清維淨 金僊為師
巖樓澗飲 泉耳療飢 富貴脫蹤 龍辱兩遺
意與體寧 樂與道明 維微期人 此焉有斯

昇仙臺記 序畧

殷之鶴岡 霸圖故址 神靈遺威 山川鐘美
節彼一峯 後路之似 昇仙構堂 方丈知止
蒼海雲山 一望一里 逍遙其中 安詳禪意
可以和身 可以養氣 於戲哲人 乃有此社

伊勢州大室院重長記

支當社鶴岡八幡宮の伊豫守源頼義 詔と奉と陸奥安倍貞任

宗任と征伐つゝんとて御傍の為小康平六年八月山州石清水公鎌倉

由比里小勸進ありて鶴岡と称ば今下宮舊蹟と云ふをこれと永保元年

二月陸奥守源家朝臣修補を後治承四年十月十一日頼朝の御宗示

崇んうみ小林郷の山此山公開く由比里の鶴岡の神殿公あり

ゆゑ然れども鶴岡の由比の舊跡をれも小林の松ヶ岡小遷しては鶴岡と称ば

せれりり莊嚴とる宮殿巍々として將軍家時々治りゆゑ中東蓋小

又たり治承の以て頼朝兼經中不れ小成らせゆひ靜のお公鎌倉

小公て兼經の以て勝法をんがたふは鶴岡の宮の神前や歌意あり歌の

二後祐経銅拍子の島山重忠あれと作る田をれ神公認一其非の歌

と翫く静が空幼罪とる舞の風俗頼朝の政子も奥小景一列の

の番侯も目次驚はたりりり

ちがやとばは涼うとと海はうと今ふをうもる

靜の其の園色那れを雲鬢花顏去風小芳一一檻と稱しと嘉
華濃之月と鑄く歌扇一一音瓜束て簾衣一一聲ハ玉とと
ぬく簾一一く翠塵さびく翔かゆとれ上下の感賞大方ゆひ靜の
丈と慕人の音韻なり恩愛其流のるるありと頼朝卿の胸あり

護良王
籠土牢



法橋中和

大塔宮二品親王ハ
 後醍醐天皇ハ三宮
 みて聰明敏智ニ
 由リ東宮ハ立
 命トシ運乱ノ世ト
 命リ武家ハ捕レ足利
 直義ハ茲計小トシテ鎌倉
 二階堂ノ谷ノ土牢ホス
 困リテ終ニ死シ
 一ノ獄ニ入ル皇公子
 翬蕭一ノ隠ニシテ
 大ニハミヤアレン



第十橋 正徳橋 筋違橋 歌橋 脇橋 裁許橋 針磨橋

畠山重忠第 西の下のり大森村へある筋違橋の

蛇谷 僧坊の里にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

物類 成りたりりの蛇谷にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の
父母のやうに物類の積りたりりの蛇谷にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の
見の影にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

荏柄天神 大森村の東にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

已あうみの袖にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

覺園寺 二階堂村にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

本尊薬師併 上人本願の心象義時再興の足利將軍尊父あり

黒地蔵 地蔵堂小安の額に大徳及と書けり寺流云い地蔵尊地

大樂寺 覺園寺の南にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

本尊鐵不動 願行上人の彫る大樂寺の不動尊の彫りあり

明王願の他の

縁倉十井 六角井 棟立井 瓶井 取巻井 鐵井 泉井

棟立井 若師堂谷の山上ありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

大塔宮地牢 二階堂村の山にありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

建武元年五月二日大塔宮兵部卿護良親王弘法大師

多の鎌倉下二階堂谷小土籠の冷泉寺ありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

保保谷口下意なれば親王の御後坊を測進伊賀守義博小令

は測進を度て承りて建武二年七月廿二日山北山より主従七騎川邊

一宮のゆまに籠れ所を奉りぬれ宮の園のありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

ありていふ石集云ひり一の庵にありていふ人の積り宮の

青砥叡智
天下才

狩野縫殿助永俊圖



天台山 一説草の山は山谷の孫倉將軍築たり鬼門ふたつ四人被仰

歌 橋 在栖天神の東小あり

文覺屋敷 頼朝鎧跡の南小あり頼朝に小義兵とよ

大御堂谷 文覺を奉養の東小隣に頼朝を初て建立し

釋迦堂谷 大御堂の東小隣に小義兵時亡父頼朝時

唐絲娘土牢 則土の牢とよ相傳に唐絲娘の塚大島光盛の塚

杉本觀音 所の茅まきまの庵基の行基僧正

本尊十一面觀音 慈覺大師の他在石を共ふ十一面觀音をたる真心の徳

滑川 右の基の他在石を共ふ十一面觀音をたる真心の徳

持る溪と十ヶ滑川へ我落たりたりと少半は物分れり

續松と十把買てあれ燃へて遂に十ヶの溪と搜し得たり

支の溪と求むるに五十ヶ續松燃えて燃へたる小利大損哉と笑

たれば其砥石門眉を擲てされば其脚邊達はあてぬの費は

あつに民は恵む心をさへられ後十ヶの只今求むる滑川のある處で

承く失ぬべし其續松の五十ヶある者も留て承くさるるに我

擲り高人の利之彼と我との差別は彼此をみれば後一と亡む

豈天下に利小非ざるに瓜弾としてやされたるは難して矢は信の人

く舌は震て我感と多け半北條時頼に上聞小達し其れは青砥

召て天下に政勢はまき没以蒙らるる光あり

淨妙寺 杉本寺の東あり禪宗謙倉五山其其一之崩山退耕れ尚

佛殿阿弥陀佛 崩山塔に光明院といふ崩山の本像は安ん

尊氏第蹟 淨妙寺の東に芝生の地を將軍尊氏の館として公方屋敷の

五大堂 尊氏第の東にあり明王院といふ真言宗

建長寺



下河邊 雄馬

巨福山興國建長禪寺

舊國の西小巨福路阪ふのり禪宗家

佛殿濟田地藏尊

應外の他長きす分傳云當山の建立

舟山塔

佛殿のまふあり遠磨像舟山大覺禪師の肖像自他

舍利樹

昭堂のまの白旗といふ舟山葬所の樹は樹小

高山

舟山塔外門の額 同所中白の額

龍王殿

方丈といふ釋迦舟山蘭院

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

巖

舟山塔のまの巖

佛殿梁牌銘

今上皇帝千佛垂手扶持諸天至心擁護

海上

東方外門の額あり側小

東

細書一七

法

崇禎元年十一月日

巨福山

總白の額筆者不詳一説小率一山又一趙子昂

銅碑

皇國萬歲台算千秋佛日增輝法輪常轉

天

西方外門の額あり側小

下

細書一七

禪

崇禎元年十一月日

林

竹西書

夫高山の後深神宇建長元年の創建ありて角山の宋園人覺
禪師禱の道隆又蘭溪と号しを願ひ小衆相護守平時頼之併殿
其莊嚴微妙にして又井の画と持燈之信彫物のたをみ居る也
殿内は傍に陣鐘陣を設けり寺僧云ふれ頼朝が富士の牧狩の時
用ひて負てて金龍水の西の門ありて鎌倉五水は其一箇之勝上巖の
方丈の北より高麗山といふに蘭溪は坐禪窟ありむり禪師は
窟中に静坐し一處上人來りて其を以て詠ふ

禪師五州一處上人
禪師五州一處上人
禪師五州一處上人

其中の玉を庵の庵に於て十五堂を以て弘法大師江島に二万座は
護摩の儀一其時の灰を自他へのてある或地形を財を望む窟ありて水
といふありて五水の其のそのを都て高山建長禪刹の典嚴真妙にして茲小
つと建長をたを掃本を掃くは清浄なるは誓ふ今むりふありて
院内寂寥として寶閣雨落ふ降り丹青班ありて花は清く香
を芳しくして衆禪の基とありむり小衆の職ありて代ありて
十の一本ども速げん今れ寺は九十五貫九百多と永後の様りといふま
鎌倉一洗の旅客の押解小導れくも到らばといふ事あり

最明寺 山之内より福源山禪興寺といふ園東禪院十刹の其一也
本願は平時頼ふしてむり七堂伽藍今廢ちしあり

明月院 最明寺の末あり角山の大覺禪師の法孫密室守嚴和尚
本願は上杉安房守憲方也

六國見 明月院の十刹の其一也此の上方より安房 上總 下總
武蔵 相模 伊豆の六國を指す

瓶井 明月院のうへに瓶口あり
十井の其一也

淨智寺 明月院の向ひあり鎌倉五山の第四之角山に宋僧源禪師
本願は平時頼也

甘露井 淨智寺の向ひあり又内外九の路傍にあり清水なり
十井の其一也

圓覺寺



瑞鹿山圓覺禪寺 山之南ふりり鎌倉五山の

寶冠釋迦佛 併殿ふふら福士梵天帝釋

選佛場 併殿の西 方丈 併殿の東ふりり

多天窟 併殿の西ふりり

瑞鹿山 總門の額 白鷺池 池の左右ふりり

開山塔 方丈の西ふりり

望禪窟 併殿の上方ふりり

妙光池 方丈の 虎頭岩 妙光池の

洪傳 併殿の上方ふりり

鐘銘曰

相摸州瑞鹿山圓覺興聖禪寺鐘銘

鶴岡之北富士之東有大圓覺為釋氏宮恢廓

賢聖躡躡象龍範圍天地素篇全功鎔金去鏽

銀鑲頌銅成大法器啓迎青紫長鯨吼月

停酸息苦超越榮耀高僧佛日普照皇

湯聲震寰中風調雨順國泰民安皇帝萬歲

重臣千秋正安三年辛及七月初八日大檀那

從四位上行相摸守平朝臣貞時勸録同成

器當寺住持傳法宋沙門子曇謹銘

什寶佛牙舍利 高山什主の第一の

宋國贈併舍利師 宋人其厚信を感賞

捨利記を卷りり謙倉志小入り其外盡空寂

作高山の後宇多帝御宇弘安二年臘月八日小糸相模守平時示の

創建の 併開山を宋國の人佛光禪師諱祖元字の子元弘安二年小

來朝を傳へ元亨釋書小載りり寺庭の謙倉風百四十貫むりり

りして伽藍玲瓏子院おろり山頭は雲霧寂寥りり香火の烟霞々

たり殊勝の禪窟ふりり末師之龍相國の二寺謙倉建長圓覺の

刹共小轉住の号今ふりり絶は杜南の文公の廟小謁 禪窟只

一りり書たりり 東慶寺 松岡と号し永覺の通禪宗比丘尼住職を開基の永時宗の三秋 田城の女ふりり開慶院覺山志道尼と号し永時宗の住職の豊臣

發願公の懸念 二月七日入寂 長壽寺 長壽寺の懸念あり 實惠山と号し 東諸山の第一 懸念 慧氏 尊氏 公の 遺福の為 小建立 正備山 古先和尚

本尊釋尊 佛心 尊氏 公の像あり 伽藍 魏々 常樂寺 粟無 尊氏 公の像あり 初天 宗 蘭 漢 入 院 後 禪 院 と あり 尊氏 公の 遺福 云々

本曾塚 尊氏 公の上方 あり 傳云 兼 仲の 嫡子 隆 水 冠 者 義 高 兼 金 あり 頼朝の 塔と あり 尊氏 公の 遺福 云々

鐵井 尊氏 公の 遺福 あり 鎌倉 十井の 其一 鐵の 鏡 尊氏 公の 遺福 云々

松源寺地蔵尊 尊氏 公の 遺福 あり 頼朝の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

窟不動尊 尊氏 公の 遺福 あり 弘法 大師の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

壽福寺 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

本尊籠釋迦 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

實朝塔 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

東光山英勝寺 念伴 道場 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

本尊河鉢陀佛 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

山門額 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

總門額 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

鐘樓 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

扇谷 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

直架 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

湘烟 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

石盤 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 あり 尊氏 公の 遺福 云々

星拱北 今水 朝東 前風 動今 物相 從後 山靜 今
人上 乘一 根 清今 諸根 融今 以激 石今 足潔 躬今
暮擁 蓬掛 其 蒼今 梅雨 連今 客維 網今 江雲 迷今
惟時 秋今 山 象今 在午 宮石 為陽 兮水 湛中
棄化 工今 風 拂今 雲盡 空今 寒月 陰今 影如 行今
此流 豐今 水 游 至今 鏡 峴 嶺 方 化今 干 翠 隆今

河内尼塔

英嶽山に塔あり山の方より山尼公の遺蹟の争論あり云々

氏山

英嶽山の西の山脈より八幡左身義家東夷征伐の時云々

泉井

泉谷のあり鎌倉十井の其一あり

網引地蔵

浄光明寺の山中のあり音由比原より漢又の網引りてより

矢拾地蔵

浄光明寺の境内にあり思慮のあり傳云原直義のちあり

原原相塔

網引地蔵の傍山あり土人思惟上人の塔と云々

扇井

扇谷のあり十井の其一あり

海蔵寺

海蔵寺のあり傳云海蔵寺といふ山中より毎夜見の法華あり

底脱井

海蔵寺のあり傳云むり上原家の尼を禪して

十六井

海蔵寺の山中窟の内ふりり土人云

景法窄窟

化糞のあり傳云悪七毒を法狭捕へり云々

假粧段

少の根原原太のあり傳云送りて送りて送りて送りて

鍛冶正宗宅

鍛冶正宗のあり傳云鍛冶正宗のあり傳云

佛師運慶宅

佛師運慶のあり傳云佛師運慶のあり傳云

巽荒神

今小谷のあり傳云巽荒神のあり傳云

人丸娘塚

人丸娘塚のあり傳云人丸娘塚のあり傳云

尊氏第蹟

尊氏第蹟のあり傳云尊氏第蹟のあり傳云

典禪寺

典禪寺のあり傳云典禪寺のあり傳云

裁許橋

裁許橋のあり傳云裁許橋のあり傳云

佐々船形洞

佐々船形洞のあり傳云佐々船形洞のあり傳云

隠里

隠里のあり傳云隠里のあり傳云

鏡洗水

鏡洗水のあり傳云鏡洗水のあり傳云

天狗堂

天狗堂のあり傳云天狗堂のあり傳云

賊の女がくく桶に底ぬけておたまぐねを月を産くま

千葉常胤宅

佐々目谷

塔辻

七重石塔 依々目谷 東の道傍 二所有り 古代の跡 此は...

小町口等 土人 云々 由井長者 所々...

盛久頭座 塔の南 門を 築く 其の...

甘縄祠 依々目谷 西小川 あり 天照...

藤九房盛長家 藤九房 盛長の家 今も...

名無松瀬川 土人 稲瀬川 といふ...

真の... 東海... 聖宮...

立涌... 紀伊... 法印...

光則寺 大佛 一の道の左 あり 小京...

大佛 初瀬村 依々目谷 あり 大威山...

日朗上人土牢 依々目谷 あり 山...

應安二年 九月 三日 大風 後...

代小... 中興...

詳...

...

...

...

...

...

...

...

...

西行上人の
 像舎の
 内軍家の
 置法と
 小銀の猫
 香爐と
 壺を境
 の奉小
 の賦心
 むく珠
 むく金
 おく銀

一と同日の輪
 あつれと其
 りり人みか
 西上人の徳と
 賞しなるを
 ぞえ



高岩拙畫
 印

昌西谷

昌西谷 墳墓 築く高時 其外一門ありて亡一所之今も 昌西谷 昌西谷の

相模入道も東勝寺に於て後切の城入道に 腹を切たり

まれば堂上小庵孤烈なる一門作家人を害せり 膚を推肌脱々

て腹切もつり自頸を捲落せり 思ひくれ最期に体特小由々

せたり 惣其門業する人約百廿三人我先や復切て屋形火

愈され猛火熾ん小燃上り黒煙天と捲つる屋上小並居り

是は足て或は自復捲切て炎の中飛入るあり或は父子兄弟を逐て重

もあり血を流く大地小溢れ漫々して燃りのやされ戸の以路小横て累

々たる郊原の如く死骸焼く之のとも後小名は名ぬれはし

ざる有惣く八百七十餘人以外門業願の者僧俗男女は

定傳て泉下小恩報せり人等小悲泣促せ有遠國に

孤考つる都て子終人の鳴此日何の日と元弘三年五月廿日と申小平

家九代昌一時小感亡て原氏を年れ執權一朝小開る

屏風山

屏風山 實戒寺の東にありて 屏風山 屏風山の傍にありて

小富士

小富士 屏風山の傍にありて 小富士 小富士の傍にありて

塔

塔 實戒寺の南にありて 塔 實戒寺の南にありて

行

行 小町の西側ありて 行 小町の西側ありて

産女塔

産女塔 同所大巧寺ありて 産女塔 同所大巧寺ありて

妙本寺

妙本寺 比企谷小ありて 妙本寺 比企谷小ありて

本尊釋迦佛

本尊釋迦佛 日蓮上人豆州左遷の附立像の釋迦は身は後小日

比企判官古趾

比企判官古趾 比企谷小ありて 比企判官古趾 比企谷小ありて

田代觀音

田代觀音 本寺ありて 田代觀音 本寺ありて

裸地蔵

裸地蔵 本寺ありて 裸地蔵 本寺ありて

補陀洛寺

補陀洛寺 本寺ありて 補陀洛寺 本寺ありて

本尊茶師佛

本尊茶師佛 本寺ありて 本尊茶師佛 本寺ありて

本尊茶師佛

本尊茶師佛 本寺ありて 本尊茶師佛 本寺ありて

本尊茶師佛

本尊茶師佛 本寺ありて 本尊茶師佛 本寺ありて

本尊茶師佛

本尊茶師佛 本寺ありて 本尊茶師佛 本寺ありて

光明寺



法橋中
印

天照山光明 鎮西六爪の内白旗流美あり

本堂記主禪師 自他の本像公安は禪師の法然上人の孫を聖光上人の弟子に初め良忠然上人と号し石州の人

弘安十一年七月六日寂 享年八十九 記主禪師の墓

阿弥陀堂 本堂の左ふりり本堂阿弥陀堂の蓮慶の傳

祈禱堂 祈禱堂の側を居の内ふりり 蓮慶の傳は祈禱堂の方ふりり

方丈 蓮慶の傳の祈禱堂の側

開山塔 本堂の左ふりり 記主禪師の石塔

天照山 山の名

記主水 山の上ふりり 蓮慶の傳の海眼下

藏王窟 蓮慶の傳の窟

山 類ハ天照山 蓮花園帝の宸居に裏書ふ

菩提塚 惣門の外

それ高き初依成ふりり 蓮慶の傳の墓

立蓮美寺と號し 良忠上人の開山と云ふ 蓮慶の傳の墓

と云ふ良忠の弟子六人あり 六派と云ふ 蓮慶の傳の墓

それ光明寺の才ニ母と名教の道親と云ふ 蓮慶の傳の墓

本寺ふりり 白旗流と云ふ 蓮慶の傳の墓

小争ひ出さるゝ 蓮慶の傳の墓

六角井 蓮慶の傳の墓

小壺警備 蓮慶の傳の墓

龍山高 蓮慶の傳の墓

公海上ふりり 蓮慶の傳の墓

新居園庵 蓮慶の傳の墓

蓮慶の傳の墓

藤倉渡村

村に民渡を業とす

水江之浦 鳥見之堅 奥釣縄釣及七日

徳金の海小川月とつ奥の彼さうひささうをさとのあまはひりて

はさかたさく一一人のまき半作さうに頭下部もさう

さうて捨作一物と申れさうの物もさの末ふれは上さうさても

へさ川さあ物作れ云

目切さき山郭公紅の川

素堂

守殿明神

森戸村出湯小川三修明神頼りてさ小動落したまふ

飛混柏

祠の少小川りてささう飛来さう

千貫松

根の面小

頼朝腰掛松

杜のまじり頼朝遊決意のたゆまぬの西れ岩上小柱の穴

鑑摺山

道徳さう燈火指さうい名り

上代沖

多古川の末ふり頼りてさ

神嵩

標山村小川りてさ神茂ちとて天名宗の寺あり本さ師傳松

岩殿観音

久聖谷村小川り岩殿とてさ本さ十一面観音の坂末巡礼所

御猿畠山

小川り猿人さ信せまて一級とも銘に其母山り猿さく

日蓮水

名取坂を町能ああり日蓮上人通うのふ時炎暑かかれた一か

石井

名取坂のふふりち長持ちとて日蓮宗末師本園寺の

安國寺

立正安國論の論述一ゆふ又寺ふ妙法蓮とて名其り

佐竹屋敷

名取道の小川り山勢扇のわくあう山の味り其藤小佐竹

秀義

秀義も秀義は佐竹の藤の故の白熊之頼りてれかえり

家の故

家の故とて五本扇の扇

梶原第 五大堂の山原に梶原景時が宅地也

頼煥弥陀 金次郎のふりう用基一過上人蔵山先願寺と云

梶原太刀洗水 朝比奈切通へつたの方あり梶原景時上総公
平、源常公討し討つたを刀洗ひしと云
後金立名水の
其一つあり

朝比奈切通 新山と切通しつたの方あり梶原景時上総公
梶原武朝の國原へ義國つりつたをせり

侍従川 朝比奈切通の東六浦の入口あり俗傳云照天地の乳母侍従と
六浦村あり東方の海ありいそ地あり

金龍院 金龍院の山あり
石 金龍院の山あり高一丈余廣九丈之清明神は石工小

願戸明神 願戸村海道の側ありは養年中
頼朝々々あり小勧修寺

祭神大山積令 延慶四年辛未四月廿六日少弥寂尹
三修と回神とあり石額正一位大山積神 裏書ふ

願戸辨天 願戸村あり
四時の無り

福石 金次郎のふりう用基一過上人蔵山先願寺と云
願戸の社あり

照天松 願戸橋の山あり照天松の事
願戸の山あり

兼好齋蹟 願戸の山あり
願戸の山あり

洲寄 願戸の山あり

金澤山禪名寺

金沢山禪名寺 坊舎五宇 真言宗 西大寺の末流

本堂 弥勒佛

運慶の

愛染堂

本堂の西

弁財天祠

本堂の西蓮池の

鐘樓

本堂の西 鐘樓あり

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より文庫に置かれし書物あり

書物あり 儒書あり 黒印佛書あり 未印佛書あり 其下は格書あり 金澤文庫の四支字に堅固書を其後上安房守憲實、執事の時再興し及上院舎大業依云武州金澤の學校ハ小糸九代の繁昌の時學向あり

一所又上州足利の學校ハ義和六年小糸尊上野の園司たり 時の建立今安房守憲實足利ハ公方家の北ありて學子譽に建て領地と併し 諸書に藏り學徒に懐慈をこれに以て諸國大亂れし學道も絶たりしを以て今依の文庫に再興し

諸國大亂れし學道も絶たりしを以て今依の文庫に再興し 諸國大亂れし學道も絶たりしを以て今依の文庫に再興し 諸國大亂れし學道も絶たりしを以て今依の文庫に再興し

觀 金澤藏書而作 王 帳修文講武餘遣人來覓舊藏書 王 鑑映日窺蜩斗標快乘晴走盡奧 圮上一編看不足對侯三万欲何如

照心古教君家有收在胸中 歷五車 青桑楓 堂少のふかりあり ぬねの徳舎ふかりあり

西湖梅 今ハ枯くあり 櫻梅 今ハ枯くあり 文殊櫻 寺中ふかりあり 今ハ枯くあり

普賢象様 寺内ふかり 黒梅 今ハ枯くあり

巳上 高山の六條 顯戸社の白梅 雀の膚の二つ板 あれと都く令候の八本とあり

美女石 燒石 共ふ高ち蓮池の傍あり

所所各 高山の佛陀落の後の初通ハ一板あり 富張りハ里談云むり 帝行 幸の事

北條顯時塔 日所ふかり 小糸貞顯塔 日所ふかり 抑高ちの金澤古刹よりて名高し 往昔 龜山帝代教願所よりて

関基の審海和尚を願ひ小糸城に歸り實時 小糸家藏書 財々伽藍魏々たり 年々累りて令候 文庫も類廢し 佛堂も甚く 封し 只寂寞しる古名刹あり

金子澤
能見堂
柳舟松



能く見ゆ。

堂と号す。

此舟松

詠てあると

かゝる金子澤

平光舎
結庵

龍見堂

龍見堂の西少あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

遮り近く... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

橋のり人... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

浦江社... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

薬王寺... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

谷村室... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

遠近の連山... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

そり勝... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

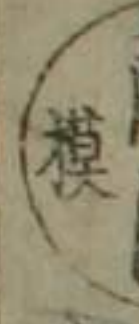
あはれ... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

小られて... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

れが萬里... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり... 龍見堂の建立あり...

藤澤

藤澤の建立あり... 藤澤の建立あり... 藤澤の建立あり... 藤澤の建立あり...





藤之澤淨光寺



外國とゆるるいはれたるの依持人けりて人の見たりん
西川嘉長

とわらわのいふもんとすくは法のたのめせめらるふく
持り主人

宗祖一過上人より今平三聖まを著く萬國を順ては轉菩提の種を樹

一老中事奉月久く沈小五郎徳義小達をまきの凡卑三聖の法味

甘ん一三心四條をまの依持心昂條の法報をまの先遊りのつ火の

奇特孤現一の徳聖大権現の聖告の伸札を授ける事い己身の

弥陀唯身の浄土の通を符契ぬる事

小栗堂 左辰乃場の末末町小栗の子院の中より張性院といふ小栗備重像

又依小栗拾人 鬼壘靈 崇寧通室古鏡照母の持持 天狗爪

原の古墳あり 什宝 古鏡 西粟唐草模様

小栗が事年々くく人口小贈交をいとも正親院をまの茶飯小云入皇

百二代称光院の時半將軍足利義量卿の時應永三十年の末常陸國の

住人小栗孫次郎備重といふ者謀叛の安えありて後倉官領の下知不隨

を善督源持氏かれと返治の爲後倉に出陣して結城に到り八月二日より小

栗の城と攻り小栗も去らば一防さぬひくれども後倉勢荒れ出づり小

栗の城を攻り小栗も去らば一防さぬひくれども後倉勢荒れ出づり小

止者の浪人の常品有徳の人を隨身の財宝を奪ひ去りて馳つたれど毒酒

を飲せしむる小栗の賊云討入棄ひ去りて馳つたれど毒酒

の俵ふりてありて小栗の賊女小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗

の事小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗小栗



北浦生蹄魚



小葉小次郎...
 惟細...
 竹村...
 馬上の...
 惜...
 わ...
 ぬ

神奈川 駿の
新芝生
波間神社
あれあり
下の穴と
ありあり



人穴の
真子前
宮侯
あれ日本の
桃花源
あり



江
惠
政
美
園

大師の原平間寺

武州橋脚郡川寄郷大所村小あり真言宗新義

本尊弘法大師像

長五寸堂内小愛深明王不動尊弘法大師像

近幸新小隆と傳て堂ふふかく

高木のそ像の冠除大師といふ寺説ふ云むり大治年中い浦小平間

氏といふ漢文あり生國の産少くは年久くは浦小生實正

直ふして名小三寶尊尊むとくども家窮く貧しく漢弘法業

苦く云わればむり年齡四十二歳の時より高僧来りく平間寺

小流れ止海るへり海上一投り年久くは海を渡り

て今幸小い浦小来りはれと漢してこふ安をせは冠除弘法威

永く富貴の身とあり其海上のちり中毎夜漸く光明あり

あれと標るく漢を傳りそく愛覺ぬ平間大感嘆して

先弘法く綱弘ありさふ大師のそ像弘法得り忽然とく四

方の民俗来りくはれ弘法故一宇弘法得り玉鳳と号り

村の名と大師の所とく高院小三點の秘封といふむり

ふれと真言秘密と稱り大師の相傳りく武蔵の郡名之六玉川

五

川六郷川の有名く又多摩摩も武蔵の郡名之六玉川

の其一つふり古縁多り又入間里も入間川といひ海道條

少くは六郷里あり六郷川といふむり大橋あり武蔵國三

大橋の其むり川にサ百九向りといふは水小流り武蔵國三

弘法中より船渡りといふあり又山の上より水道弘法川

細流ありせぬ所来橋りといふあり又山の上より水道弘法川

新田明神祠

奥の聖地あり又傳ふ義興并に家臣の古墳の廣の

廻り小大竹弘生にありとされ弘法と稱りといひ傳ふ

別當弘法弘法といふ真言宗あり弘法と稱り

新田左中将義貞の三男小左衛門義興中へ器量為常勝れ智

勇武界の各將より父義貞死の後も愛りしあやめ合戦つりつども

毎勢ありて勝利あり上野國に居り時々武蔵國に報て相州

鎌倉に窺りて安んずるは後念管領足利基氏つらむりて討む

討つとも曾て居り決定りて基氏つらむり竹沢右亮弘法

竹沢討つとも竹沢に後念弘法ありたり竹沢

て義興も同意にされ義興と竹沢と心合ひて心合ひて竹沢

謀議のしる都より竹沢の息女十七ありせむりて容顔美麗

あり竹沢も義興も好む遠くありたり竹沢

究の契りて竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

斯く竹沢と義興とを二乃時方と云ひ竹沢の娘と云ふ

延元元年十月十日矢口の渡りて舟の底をさぐりて鑿とて一必至て義興
一藤十三人密に渡り時鑿込ぬと船を沈めたり具一ゆい一井彈心
義興孤宙より上ぐれ義興大を聲を日本一の石道者お竹並ぬる
口惜さす牙孤嘴自害して石のめ屑と成ふたり江戶竹は若お恩
賞ふれり其後江戶遠征を本國に帰せしめ矢口の渡りお到り附お義
興の怨を盡らされし時居侯ののく射るとて一山に震動一黒雲
一村江戶の首の上お落るとて一江戶の馬をり逆お落るとるまより
重傷をうけお不活とまのて終おぬひ死せど死おたる是のこあは入
向川の重家三百餘人一時お灰燼と成り我興の村れ一矢口の渡りお義
興の怨を盡くゆとて人々を悩むる向近隣の村老衆りて義興の亡魂を一
社の神にお出せり新田大明神とて中へつらつこのお多禮今ふとてえ
んぞとらけけりるら一死成り一幸なりぬり云

玉川辨天宮

別名龍王院は地味津の
別名龍王院は地味津の

八幡宮

八幡隊村ありは所の生土神といふ例あり六月十五日神樂
船より玉川に渡り別名宝珠院

大森

村の名は久保所にお中散の敷居らるびらまは栗細工の
名多し

長栄山本門寺

塔頭三十八字
在原郡千束郷池上村あり日蓮宗

存尊釋迦佛

運慶の他
本堂あり

為ちの高祖日蓮上人の開基之往昔上人房州小湊よりあふ来り番匠
宇佐原の尉宗仲が家あり法義経次脱て宗意弘通しつら時あり

遠く登り宣わぬ院にお流はり真化縁満よりて弘安元年十月十二日遷化
一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

あれ當山の封境巍々として五重塔題目堂三王門惣門若お額お光悦の
一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊

一布衣宗仲上人の身ありて多の身お終て寺とせり今寺中にお内大坊



大師河東
大衆等
遠騎の士
唐の舞
おほく
何百里
支考

葛齊政美書



森田
正四

名
里
美

芋丸蘭寄

川橋くわいふ川まての旧名今も一
笠橋もたが敷のやせりなり

まゆけのらうわれ崎の笠橋みはくやまう所はこゆらん

白波の芋丸蘭が寄の海馴れ松のぬるのんとつれるさ

芋丸一重をさうらのあさびさ波ふむる岩の松風

名産芋丸蘭海苔

海苔と取秋の彼岸より始ると妻の彼岸も終る霜月臘月や寒を思

凜冽ある耐取と最上といふ本とつゆめ強多く拵げて小舩小積沖の方十町

許りのひの井町又一里餘も出て狼牙棒少く海産小穴とゆての栄

孤抱さみまふれ松口とつ満潮小海苔のれ纏ふ干汐の耐分少

浪と所や歩行せも出はく船や通く其海苔松籠ふ持帰

磯をよて流流し塵をど撰て板の上を庵丁松のりめ細密小敵く

持れく藤の簀紙と漉すふ流流し遊小双干乾し豊重のて流州

町の海苔同屋をく愛く芋丸蘭海苔といふゆると流州海苔や

つゆめ海苔も海藻のれふのうふゆらん

鈴杜八幡宮

鈴杜少あり旧名延喜式云磐井神社祭神石流木加流
例祭八月十五日社内小鈴杜といふ所り撃ハ鈴のるや叩

神室くは未社五本 稲荷 大國主命 櫻田考命 多助え 一處靈神
又笠橋洞小六本 天満神 鹿島 粟津 女天 菊理考命 書目堂

王右軍等 狐あまの 社司藤田氏守

儀馴れ松 社おやりり

鳥石 本社の傍小なり大云三三條
石面小鳥の模形なり五寸許

石の色黒漆のり
石の左肩小碑なり南郭子銘を
書ハ古篆なり鳥石葛原鏡を

石前小聯なり左のり

鈴杜の珠笠山雨

儂陰養海釣森風

明和元年八月

藤之島

右ハ橋小路三位参議正福齋





兩院一品金布
典仁親王

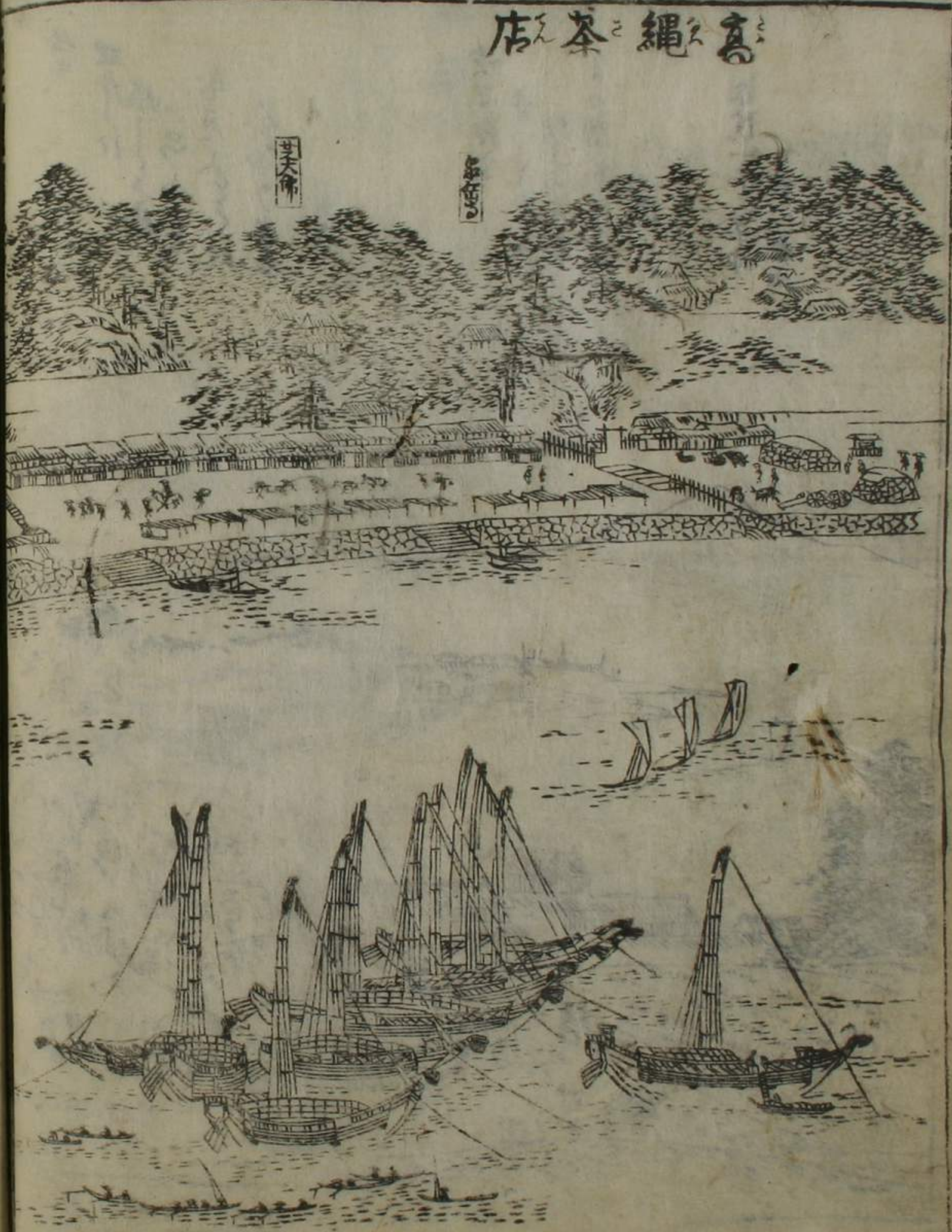
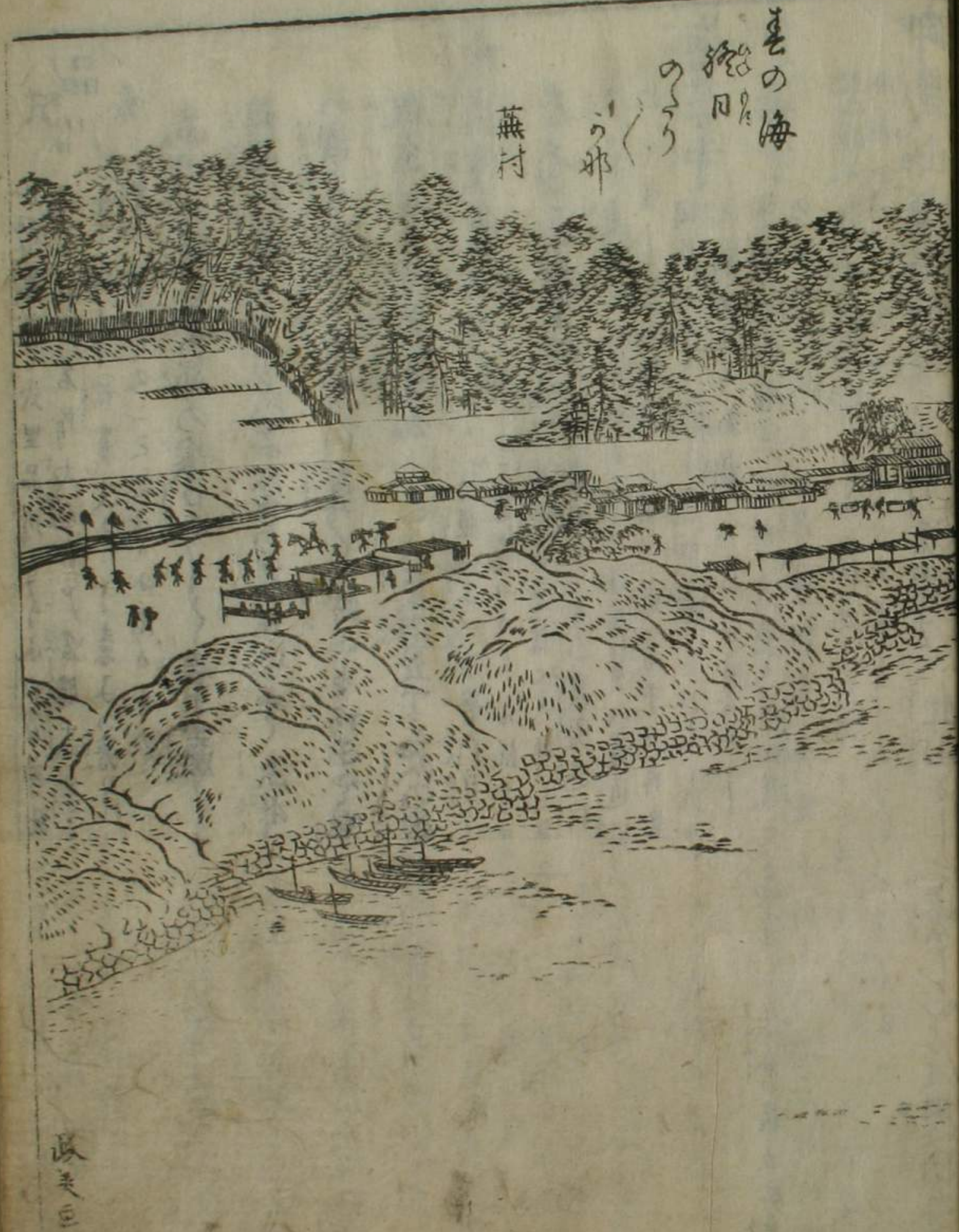
吹さらけり
舟く舟日
たふふふ
ふらふら
ちう橋江

拾遺
世中に
塔しと物
あふとち
を足てとくは
心ありあり
東夷

御殿山
天王社



東夷



田八幡宮



乳小島

志見
志見

放生舎

放生舎
放生舎



志見

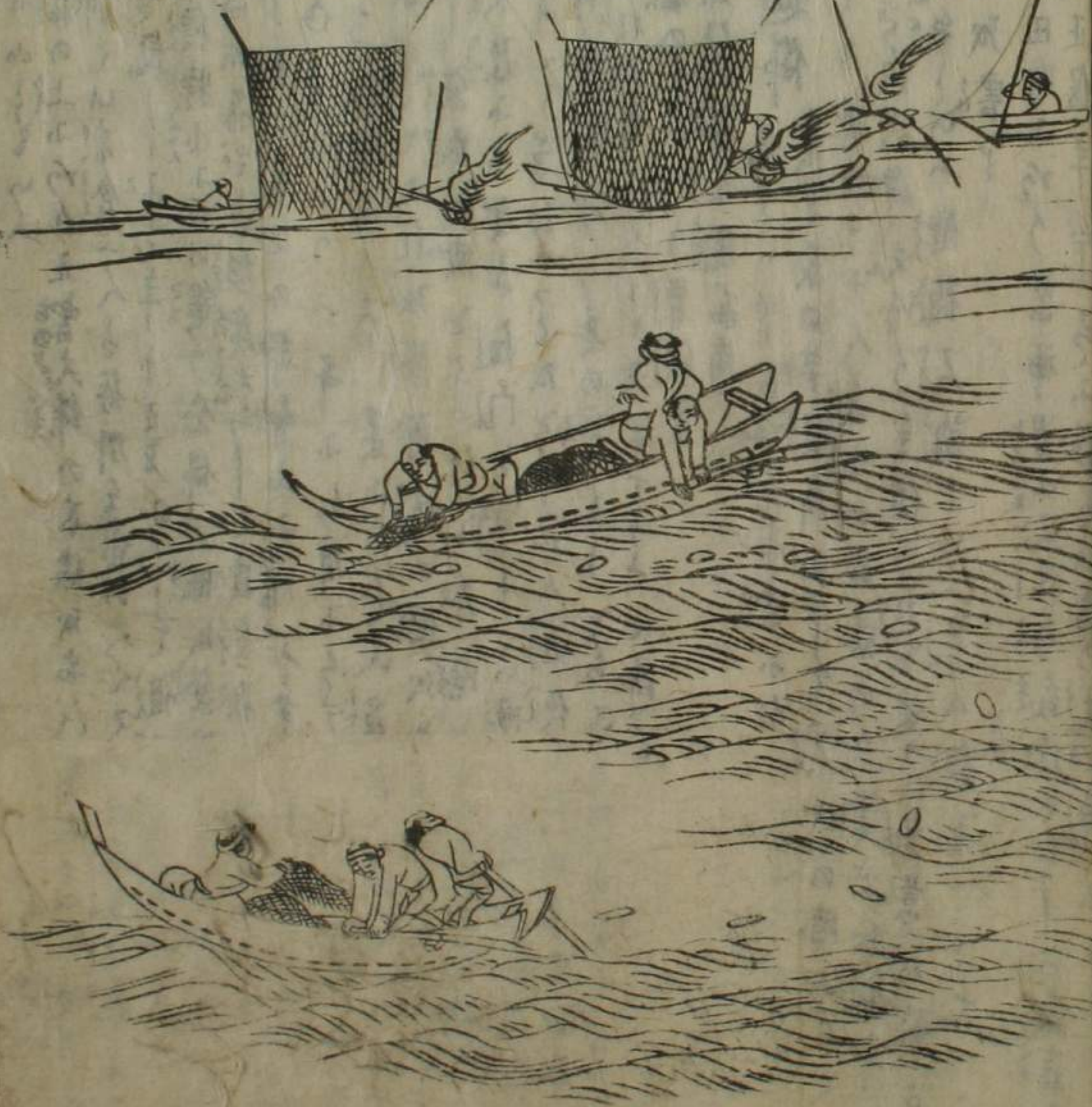
芝海
漁舟



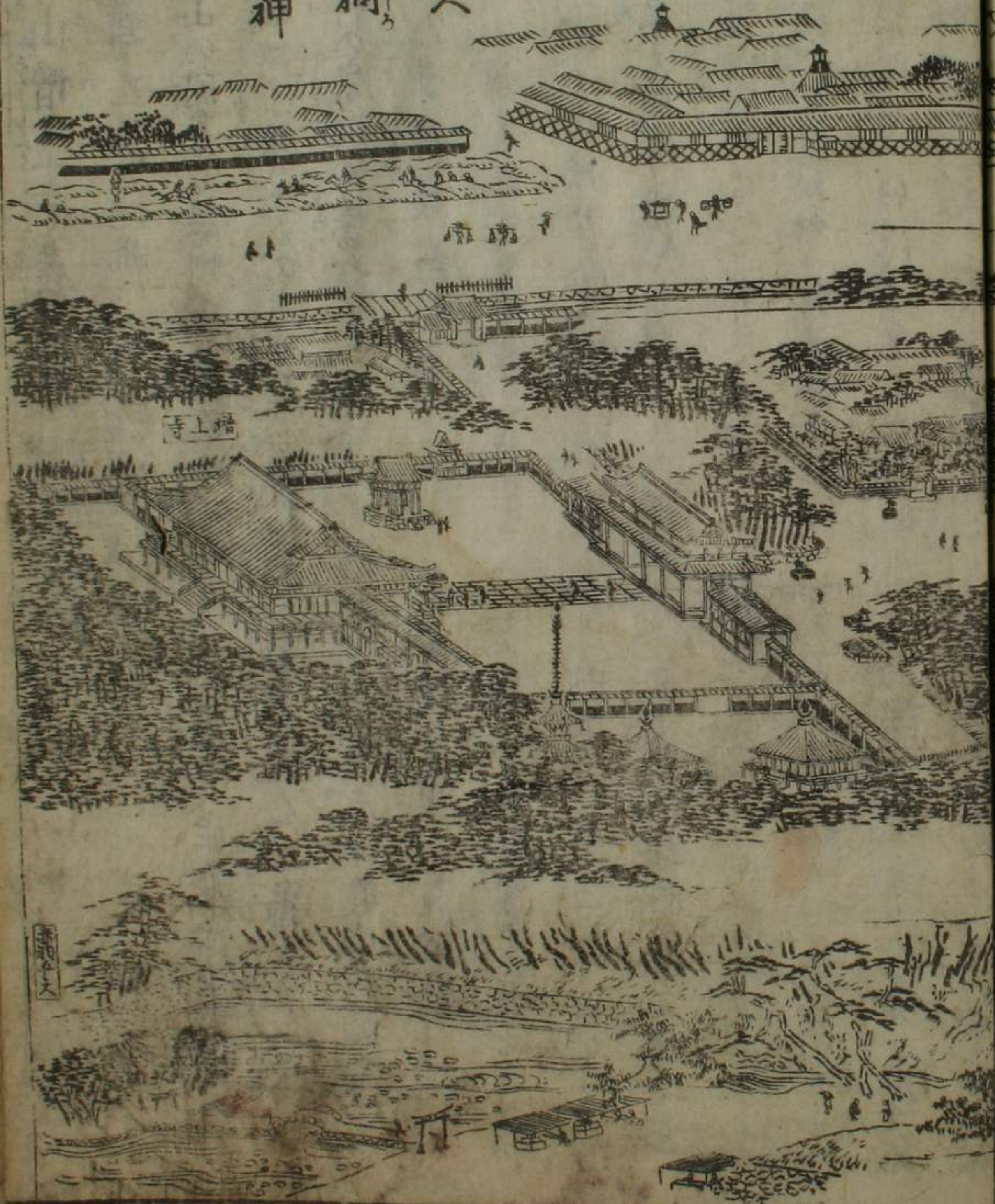
北尾基齊畫

不羨功名萬戶侯，
一絲牽動海天秋。
長竿子彎釣
短之簾衣小之舟
搖動兩三聲，
益漿
驚回四五個，
沙鷗
得魚沽酒江邊飲，
醉臥蘆花雪枕頭。

李白



芝神明
 増上寺
 赤羽寺
 子聖祠
 茅野天



三縁山増上寺廣度院徳東増林

本尊の弥勒佛徳心僧都の佛

當山の開基は總州千葉女の末裔にして源空上人七女の嫡流

西蓮社了譽上人の高才大蓮社西譽聖聰上人と號して浄土

念佛の宗風を傳へて之心昂一乃窓のあきらみ念四條の月夜とて

のやび半理俱れぬとて一の中は実報受用の花が縁とて

武州江府貝塚の臺光明寺住せらる舊地は今紙後等と稱する所

ありて一其頃人皇一百一代後小松院の御宇至徳二年このとの

丑の夏光明寺おたけ論義のり讚題と号導大師の四帖の疏小長時起

行果極菩提とての釈支之西譽上人彼化とて所化の聖向者答者

馬ふ法門の扉はかた先光明ちたれためて三縁山増上寺と号し一

金剛の血脈とてけはぎ支二世弘明蓮社問作上人と号し一支二世弘

寺職彼化弘貞蓮社源譽上人と号しあれ増上寺中興之 官家師檀乃

台令のりて御戒師と成血脈相傳のり一と上人遷化は慶長十五年

ふして益弘普光觀智國師と賜ふは時ふあて易の法門の行運

たが中絶おやを時様とて相應して一天四海宗風小歸せとて一の

のみふまえとてり彼化の一代の法藏と胸ふたえ所化の十二世教文弘眼

ふさし學道弘まよ智座弘みとて流法利生けはつとてふあたれはあ寺の

院辨弘慶彦院ともいふとてや寺名ふ 御靈舎のりとの後ハ山岡とあふ

所化寮連綿して山門龜々として釋迦文殊普賢十六羅漢の像を

安んず安國殿黒本を岡山堂鎮守の徳世三所飯倉天神を子堂経藏

金鼓を仍念佛堂極樂橋慶師門蓮池の本堂のうへ柳の井を

其小の方あり糸桜曼陀羅石系座の松糸山を座に坐し柳のり觀智

院ふり火清地蔵の花岳院小安んず又宗席は五十傍様本面席二十八傍様側席

六十傍様都て大衆手結といふ毎員靈寶の會に大金公布たる給孤園も比せんや

画(原史星) 牛橋(子) 龍包(鹿) 江戸(地) 新(左) 土産(賞)



丹(善) 生(り) 繪(を)



政美馬



川

内

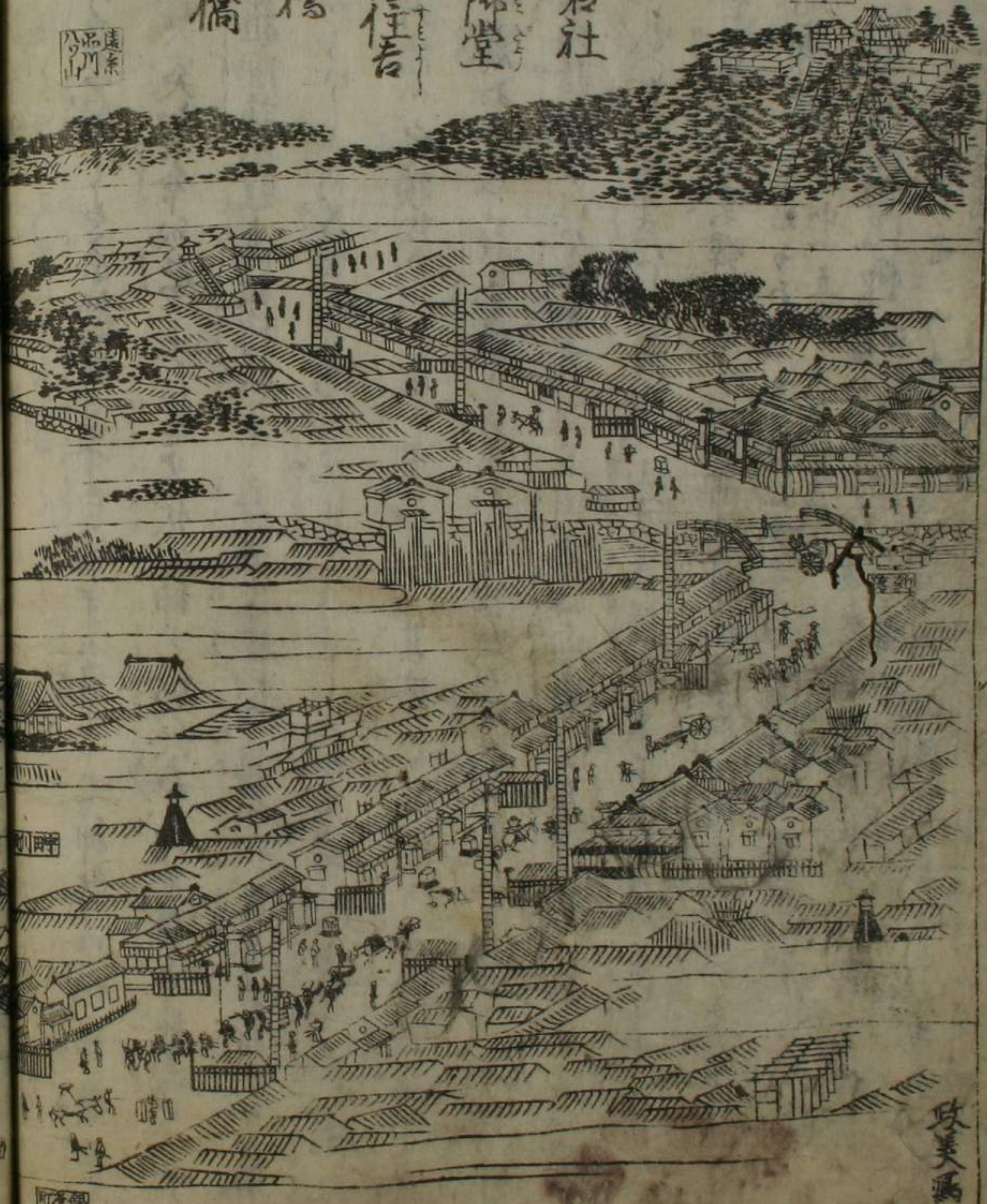
立



愛宕社
築地堂
佃田住吉
新橋
糸橋



岩



政美

日本橋

東都
葛原政美圖



富士山



東
日本橋

慈寶珠高欄橋長廿八間江戶町中央より南の方
行程廿二里 定心橋三條橋より南橋中を行程取て
百式拾四里半 拾五町 驛 宿 五十二次 此れと東海道といふ

此橋上四方眺み風景真妙なり北小笠原東殿山南小富士山我々
峯ハ雲ニ小舟一入りの海より此名まで見西の方 御城山魏然
舟を海ばらちくく行くと舟もさうふとつる橋上の舟人征馬の
男もく橋下舟も真帆植帆板百艘漕つとて日毎小市張るの聲
真小三條九段城隈小麓萬戸千の平且小舟くくは是の來り
旅人乃行

芳春閣

東海道名所圖會卷之六 大尾

東海道名所圖會跋



子羊之皮不如一狐之腋示君
一馬圖 務重十季見是謂國果
勝于見乎不心意見成國世見
能國固見及國無見非圖奈今
人為見者多焉國者少逮得圖
而器其襟懷娛心志國不謂子
勝于見乎是之所在之意也

候曉解執轡，至多沙海，望湖素
 海卷之杜，名橋遠之濱，名橋
 龍大堰，云流之穗，清見美，京艾
 崇靈嶽，笥山天，蘭肯，渭，越，汪，極
 心，底，心，遂，過，餽，驛，五，十，者，餘，郵
 到東都，國，德，所，紀，畧，盡，矣，此，以
 也，縱，探，禹，穴，登，龍，門，何，憚，乎，雖
 然，鄙，癖，足，供，為，他，人，百，呆，不，壯
 言，名，論，聽，者，逆，飽，謂，只，果，須，亦
 偏，乎，謂，國，果，勝，於，見，乎，心，不，龍，亦
 國，難，獲，捷，徑，矣，略，贅，數，語，伸，以
 意，報，賜
 皇和漢，平之，辰，而，已，矣
 實改元，某，次，丁，巳，稿，九月

平安

於里籬書



寬政七歲
浪花
寬政九丁巳載十一月

耕原喜兵衛

田中庄兵衛

出雲寺次郎

左衛門

京
殿 鳥 八

今井喜兵衛

武村甚兵衛

榊谷市兵衛

須原茂兵衛

東都
前川六左衛門

小林新兵衛

昭和八年十二月廿日寄
和田大作氏贈

